

東京都エネルギー問題アドバイザーボードにおける論点（第1回）

論点Ⅰ これからの電力の需要と供給の考え方

- **電力の需給**が厳しい状況が続く夏や冬の時期に**需要**を**効果的に抑制**するためにどのような取組が必要となるか。**省エネ**の呼びかけや**DR**などを繰り返すことが電力の節減に**持続的な効果**をもたらすか。
- **中長期的**に電力の**需要**を抑えていく上で、戦略的な取組を**どのように進めていくべきか**。人口減少により**家庭部門**は**減少**する一方で、**産業活動**では、電力の利用の**増加**が見込まれる中、**どのような対応**が必要か。
- **電力需給**に関し、**予備率**を十分に**確保することのできない**状況において、**東京に係る電源構成**をどう考えるか。再生可能エネルギーの利用が進む一方で、**火力**を**トランジション**の考え方でどのように**位置づける**べきか。
- **ゼロエミッション**の実現の観点から、石炭やLNGによる**火力発電**は**減少**することが見込まれる一方で、**安定した供給体制**をどのように作り、**維持**していくことが**適切**か。
- 電力の**安定した供給**を実現する上で、**系統のみに頼ることのない発電と送電の仕組み**をどう作り上げてくか。その場合の**蓄電池の配置**等の確保に加え、**EV**からの供給する取組をどう**効果的に進める**べきか。
- **ゼロエミッション**への**移行期**において、**火力**等を利用していく場合の**都民等からの理解**を**広げる**ためにどのような工夫が必要か。

東京都エネルギー問題アドバイザーボードにおける論点（第1回）

論点Ⅱ（水素のエネルギーとしての利用）

- **水素エネルギーの普及**に向けて、**需要の拡大**とパイプラインを含めた**供給のしくみの整備**を効果的に進める**戦略**ではどのような点が**重要**となるのか。**需要と供給の両面**における取組の**優先順位**をどのように考えるべきか。
- 国の新しい**水素基本戦略**との関係で**東京**はどのような**部分**に力を入れることが最も**効果的**か。そうした取組を**加速**するためにどう**工夫**を積み重ねることが**適切**か。
- 既存の**火力発電**を効果的に利用して**水素の専焼**や**混焼**の取組をどのような**考え方**と**スピード感**で進めていくことが**適切**か。**既存の火力発電**を効果的に**活用**して**水素のエネルギー利用**を進める場合にどのような**対応**が**適切**か。
- **モビリティ**における**水素の活用**を進める上で、**供給体制**と**モビリティの普及**の**バランス**をどのように考えるべきか。モビリティの**普及**に当たり、その**効果**を高める取組としてどのような**部分**を重視するべきか。
- **水素**を使う**燃料電池車**と**EV**との**普及**について、各々をどのように伸ばしていくことが必要となるか。モビリティとしての**使い分け**について、どのように考えていくべきか。
- 水素のほか、**新しいエネルギー**として**活用**を進めるべき取組はどのようなものか。**合成メタン**や**SAF**や**アンモニア**の活用などをどの程度進めていくことが必要となるか。さらに、新エネルギーの**価格**を下げするため、**技術開発**や**需要量**などの関係をどう考えるか。